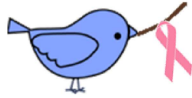


# 乳がん 高度検診・治療センター NEW ーす NO.38

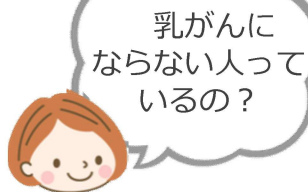
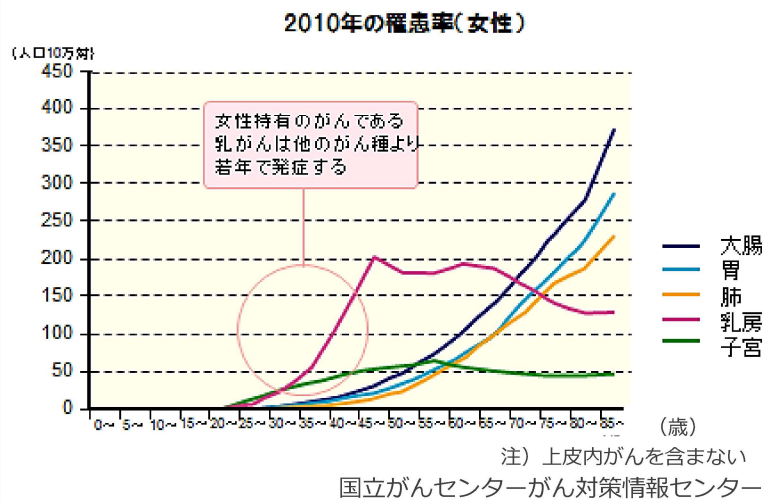
2017.7



## 乳がん検診をお勧めします!

乳がんは増え続けており、女性のかかる“がん”の中で一番多くなりました。「2016年のがん統計予測」によると乳がんにかかる人の数は9万人（女性のみ）と推定されます。しかも子育て中や働きざかりの方に多い特徴があります。ここ30年の乳がんの急激な増加は、食生活やライフスタイルの変化がエストロゲン（女性ホルモン）の分泌に影響しているためとみられています。乳がんは女性の壮年層（30～64歳）のがん死亡原因のトップになっているにもかかわらず、無関心な人が多いのも現状です。「乳がんはまだ私には関係ない」と思っていませんか？

### 乳がんと他のがんの発症年齢



乳がんにならない人っているの？

乳がんにかかる人は30代から40代にかけて急増します。ピークは40代後半～50代。「閉経後は大丈夫」「50歳過ぎたら乳がんにならない」ということもありません。また、若いからといって油断はできません。乳がんは何歳でもかかる可能性があります。家族や親戚に乳がんがない、出産・授乳経験があるから大丈夫。ということもいえません。つまり、乳がんにならない、といえる人は一人もいないのです。



予防法はあるの？

残念ながら、現在乳がんの予防法はありません。しかし乳がんは他のがんに比べて、早期の段階に発見できれば治りやすいがんであることも分かっています。早期発見であれば、約90%の人が治療します。決して怖い病気ではありません。



早期に発見するためには？

1次予防としてがんを防ぐ万全の策はありませんが、無症状のうちに乳がん検診を受診した人では、乳がんが早期に発見される可能性が高く、その段階で適切な治療をすれば、良好な経過が期待できます。検診として、最低2年に1回のマンモグラフィ併用検診とその間を埋めてもらうべく、自己検診を行いましょ。まず、自治体検診等を受けてもらうことをお勧めします。

市立貝塚病院  
TEL : 072-422-5865

乳腺外科 西 敏夫